

第4回

世界遺産構成資産群「牽牛子塚古墳」

ふ ど き おが
しもつけ風土記の丘資料館

あすか 飛鳥時代とは

6世紀(西暦500年代)から8世紀(700年代)初頭頃、現在の中国・朝鮮半島諸国を含む東アジア圏の諸国は大きな変遷の時期を迎えます。我が国も東アジア諸国の変革に巻き込まれる中で、新たな国づくりが始まります。東アジア諸国に遅れをとらないよう情報を収集するために遣隋使や遣唐使を派遣し、その情報をもとに十七条憲法などの法整備をすすめ、政治改革に着手します。その改革の中で乙巳の変、大化の改新、壬申の乱などの政権争いを経験し、「日本」という国が出来上がっていきました。このようなドラマがあった場所が現在の奈良県明日香村周辺で、「飛鳥」の地が政治・文化の中心地であった時代を飛鳥時代と呼んでいます。

牽牛子塚古墳

明日香村には高松塚古墳や石舞台古墳、飛鳥寺などの著名な史跡が残されていますが、最近テレビCMなどで取り上げられているのが、牽牛子塚古墳です。この古墳は八角形の形状からアサガオに例えられ、アサガオの別称から「牽牛子塚」とされたといわれています。

現在は明日香村が実施した史跡整備により、八角形三段の墳丘が復元されています。墳丘には白い二上山から切り出された凝灰岩切石が貼られ、真っ白に輝くピラミッドのように見えるととても綺麗な古墳です。

江戸時代から、この古墳は一つの巨石を削り抜いて二つの空間をつくる、特異な横口式石槨であることが知られていました。大正時代に行われた発掘調査で、夾紵棺の破片や七宝亀甲形飾金具(棺装飾用の七宝焼製の八角形の飾金具)、人骨などが確認されました。2009(平成21)年度の明日香村教育委員会の調査では、墳丘の平面形は対辺約22mの正八角形で、墳丘斜面には貼石が施されていたことが分かりました。また、付近から牽牛子塚古墳の後に造られた方墳が確認され、所在地の字名から越塚御門古墳と命名されました。

牽牛子塚古墳の被葬者

牽牛子塚古墳は規模が大きい八角形で、夾紵棺の仕様から、天皇やそれに準ずる人物が葬られたと想定されます。さらに、埋葬施設が当初から二名を埋葬する構造であり、分析結果では出土した歯が30～40歳代女性のものと想定されることから、この古墳は日本歴史上初めて2度天皇となった、皇極・斉明天帝と娘の間人皇女の墓、また、越塚御門古墳は孫娘の大田皇女の墓であると考えられています。

『日本書紀』には天智天皇6(667)年条に齐明天皇と間人皇女を小市の丘(小市岡上陵)に葬り、さらにその陵墓の前方に大田皇女を葬ったことが記されており、この記述からも被葬者が想定されています。現在、石槨の暗い槨内では女帝たちの生きた時代を想像した映像が映し出されるよう整備がされています。

この丘の上から東を望むと、対岸の丘陵上には高松塚古墳や下毛野朝臣古麻呂が築造を担当した文武天皇の御陵と想定されている、八角形の中尾山古墳を見ることができます。これらの古墳や都が造られた千数百年前、下毛野朝臣古麻呂を含め下毛野出身の人たちも、この綺麗な古墳を目にしたこととされます。



牽牛子塚古墳



中尾山古墳